

東白杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年6月 東白杵農林振興局
(東白杵北部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 延岡市農業労働力確保対策協議会総会
 - 2 子牛セリ市が開催
 - 3 東白杵地区花き振興会総会が開催
 - 4 ももの出荷開始をPR

- II 主な普及指導活動等の取組 (P 3～4)
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P 3～4)
 - 1 【施策1】 暑さに強く品質の高い米を目指した品種比較試験開始
 - 2 【施策1】 JA本店と連携した新規除草剤試験を実施
 - 3 【施策2】 認定農業者フォローアップ
 - 4 【施策3】 北川町しきみ部会総会が開催
 - 5 【施策3】 シキミのドローン防除に関する協議を実施
 - 6 【施策4】 肉用牛繁殖農家における子牛の発育状況調査

 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P 4)
 - 1 延岡茶生産組合荒茶品評会が開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 延岡市農業労働力確保対策協議会総会

10日、延岡市役所講堂にて通常総会が開催されました。
この協議会は不足する農業労働力を補完する人材の確保及び農業分野への障がい者の就労を支援するため、農業分野と福祉分野の関係機関・団体により平成30年に設立されたものです。

今年度の取組計画については、これまでの活動に加えて、農業用機械オペレーター養成研修会の講師候補者に農業者、さらには北浦町農業公社にも協力をいただく予定になっているほか、新たに雇用人材マッチングアプリを推進することで事業計画が承認されました。これまで取り組んできたお試し就農や農作業見学会も含めて、地域での農業人材確保が進むことが期待されます。



総会の様子

2 子牛セリ市が開催

6日、延岡家畜市場において、6月期の子牛セリ市が開催されました。

平均価格(速報)は、雌803千円(180頭)、去勢886千円(182頭)で、全平均では、845千円となり、前回(5月)比、約9千円安での取引となりました。

全国的な頭数減少を背景に高値が維持された一方、枝肉相場は上がっていないことから、今後の相場や情勢に対して不安に思う生産者の声が聞かれました。

セリ前の研修会では、振興局から国や県の補助事業についての情報提供がありました。

3 東臼杵地区花き振興会総会が開催

17日、東臼杵北部農業改良普及センターにて、生産者8名、関係者8名が参加して、東臼杵地区花き振興会総会が開催されました。

総会では令和7年度活動実績及び収支決算、令和8年度活動計画及び収支予算について承認されました。また役員改選については役員全員が留任となりました。

総会終了後の研修会で、県総合農業試験場専門技術センターの川崎専技を講師として、「施設花きの高温対策について」というテーマで講義を受けました。近年施設園芸全体で問題になっている内容でしたので、参加した生産者から積極的に質問が出されていました。



東臼杵地区花き振興会総会

4 ももの出荷開始をPR

4日、北方町上崎の現地(もも栽培ハウス)にて、報道関係者を招いて、ももの出荷開始をPRする取材が行われました。

北方町は、本県ではももの産地化に取り組んでいる唯一の地域として、ももの栽培が以前から盛んであり、極早生品種の導入により県内外の他地域に先駆けてももを出荷できているという特徴があります。

当日は報道機関8社が参加し、もものおいしさ等に関する質疑応答、生産者が果実を収穫する様子やインタビュー撮影が行われました。取材を受けた生産者は、今年も生育は順調でおいしいももができたと話しており、生産者の話しや収穫の様子がテレビでも放映され、北方町産もものPRができました。



もも出荷開始の取材状況

II 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

1 【施策1】 暑さに強く品質の高い米を目指した品種比較試験開始

4日、行藤地区において、令和8年度奨励品種決定現地試験のための水稻苗の移植作業を延岡地区営農振興協議会のメンバーと現地試験を委託する生産者とも連携して実施しました。

奨励品種決定現地試験は、高温による品質低下が生じにくい品種を含む4品種を1ほ場に植え付け、生育の品種間差を調査することで、延岡地区に合う品種を選定することを目的としています。移植作業は、2時間程度の時間を要し、問題なく作業を終えることが出来ました。

今後、「ヒノヒカリ」や「ひなた舞」より優れた特性を発揮するか継続的に調査し、現地検討会で生産者とともに生育等を確認していきます。



品種比較試験の田植え

2 【施策1】 JA本店と連携した新規除草剤試験を実施

19日、沖田地区において、JA本店生産資材課が主導する新規除草剤試験として、①ラジコンボートによる除草剤散布、②水口からの流し込みによる顆粒型除草剤散布を行いました。

省力的な除草剤散布方法として、ジャンボ剤・豆粒剤の投げ込みやドローン散布、田植同時散布などが確立されていますが、価格や効果のばらつき、稲への影響など、それぞれにデメリットもあるため、今回試験する方法が新たな選択肢となることを期待しています。

見学した生産者からは、「実際にラジコンボートを操作してみて、ドローンより容易に散布できることが分かり、有効だと思った。今後の剤効を期待したい。」などの前向きな感想が聞かれました。

今後、生育への影響や雑草調査を行い、稲作研究会など生産者への結果報告を予定しています。



ラジコンボートによる除草剤散布

3 【施策2】 認定農業者フォローアップ

12日に農業経営改善計画の5年目となる認定農業者のフォローアップ巡回（複合経営1件）を関係機関と連携して実施しました。

フォローアップでは、対象者の現状と5年後の目標を踏まえた上で、次期の農業経営改善計画の作成支援を行い、普及センターから飼養管理及び出荷数等を含む経営状況を聞き取った上で、課題解決のための助言を行いました。

今回の巡回を通して、支援対象者の経営改善に向けた意欲を高めることが出来たと思われまます。今後も農業者の経営改善を支援していきます。

4 【施策3】北川町しきみ部会総会が開催

8日、延岡市内の飲食店にて、生産者31名、関係者19名が参加し、北川町しきみ部会総会が開催されました。

総会では令和7年度事業実績等について説明が行われました。また令和8年度の部会の重点取組事項として県の地域プランで計画しているドローン防除の現地検討会等の取組を設定し、承認されました。

令和元年以降は部会全体の出荷量減少が続いているため、総会終了後の研修会では、普及センターから生産性向上に向けた土づくり、シキミの施肥について説明を行いました。一部の生産者から土壌診断や土づくりに取り組んでみたいという声が聞かれました。

5 【施策3】シキミのドローン防除に関する協議を実施

24～25日、北川町等にて、生産者（部会役員）4名、関係者2名が参加し、北川町しきみ部会の各支部でシキミのドローン防除に関する協議を行いました。

事前に普及センターと委託先の延岡スカイサービスとで打合せを行っており、今回はその内容を踏まえて個別に生産者へ料金等を伝えて協議を行いました。協議の結果、7月中旬に部会の4支部で1箇所ずつ、計4箇所で現地検討を行うことになりました。各支部の生産者に実際のドローン防除の様子を見てもらい、品質や防除効果の確認も行います。実施場所も概ね決まりましたので、事前に延岡スカイサービスと現地確認を行う予定です。

6 【施策4】肉用牛繁殖農家における子牛の発育状況調査

16日、管内の肉用牛繁殖農家をJAと協力して巡回し、子牛の体測を実施しました。本取組は、子牛ごとの発育状況を客観的な数値で把握し、適切な飼養管理へと繋げることを目的としています。

普及センターは、測定した胸囲や腹囲のデータを記録し、標準発育曲線（理想的な成長ペースをグラフにしたもの）と発育状況とを比較して、支援農家に対して助言等を行いました。支援農家とともに一頭ごとの発育の傾向を確認したことで、現在の栄養管理の妥当性や、改善が必要な個体を明確化することができました。

今回の調査により、農家のデータ活用に対する意識が高まり、根拠に基づいた管理改善への足掛かりとなりました。今後は、蓄積されるデータに関係機関と共有・分析し、当該農家の生産性向上に向けた具体的な飼料給与設計や対策を継続して支援していきます。

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 延岡茶生産組合荒茶品評会が開催

18日、普及センターにおいて、延岡茶生産組合荒茶品評会が開催され、県総合農業試験場専門技術センターの新専技、総合農試茶業支場の佐藤支場長、茶業協会の吉留事務局長を審査員として、審査が行われました。

この品評会は、延岡茶の品質向上等を目的として毎年開催されており、今年度は煎茶、釜炒り茶、蒸し製玉緑茶の3茶種合計26点の出品があり、外観（色や艶）や味・香りの項目について細かく調査されました。審査員からは、「製茶技術について年々向上しており、栽培管理を徹底することでより高品質なお茶の生産に繋げて欲しい」との意見があり、技術向上が図られていることが伺えました。

今後、普及センターとしては、審査結果をもとに、考えられる要因を出品者に対して個別にフィードバックすることで、改善対策を促します。

出品された茶については、9月に開催予定の県茶共進会に出品される予定です。



荒茶品評会での審査